

12月 定例教育委員会会議録

- | | | | |
|---|------|--|----------------------------|
| 1 | 日 時 | 平成 28 年 12 月 22 日 (木) | 午後 3 時 45 分から午後 4 時 50 分まで |
| 2 | 場 所 | 竜洋体育センター | 研修室 |
| 3 | 出席者 | 村松啓至教育長
杉本憲司委員 青島美子委員 田中さゆり委員 秋元富敏委員 | |
| 4 | 出席職員 | 秋野雅彦教育部長 藺田欣也教育総務課長 佐藤千明学校給食管理室長
山本敏治学校教育課長 伊藤八重子中央図書館長 高梨恭孝文化財課長
寺田尚人幼稚園保育園課主査 名倉章市民活動推進課長
神谷愛三郎スポーツ振興室長 伊藤道明学府一体校推進室長 | |
| 5 | 傍聴人 | 0人 | |

●教育委員会が決定したもの

(1) 議案第 56 号 磐田市社会教育委員の委嘱について

社会教育委員は、社会教育法及び磐田市社会教育委員条例の規定により、教育委員会が、平成 27 年 6 月に、平成 29 年 5 月 31 日までの 2 年間の任期として、10 名の方を委嘱しているところですが、12 月 1 日に民生委員・児童委員の一斉改選があり、民生委員児童委員協議会からの選出委員の交代がありました。今回、交代された 1 名の方に委嘱するものです。なお、任期については、条例の規定により、前任者の残任期間となります。

<質疑・意見>

なし

<議案の承認>

一同同意

審議の結果、議案第 56 号は原案どおり承認された。

●各課から報告されたもの

(1) 幼稚園保育園課

磐田中部幼稚園の再築についてです。磐田中部幼稚園は、昭和 48 年建設で、43 年が経過していて老朽化が進んでいます。加えて敷地が狭く、園庭も狭く、駐車スペースもあまりない状況です。現在も周辺のアパートの駐車場を借りて確保しています。こういったことから早期の対応が必要という認識で、今年度再築の基本構想を策定しています。基本構想の中では複数の案を検討してきました。磐田中部幼稚園の現在の場所への建替えをまず考えましたが、園庭や駐車場の狭さの解決が難しいということで、現在の敷地への建替えは難しいと考えています。続いて、新しい土地を購入して建設することも考えましたが、幼稚園に適した広さの土地取得の難しさ、購入する手続きの関係で期間が長期化する課題もあります。このような中で磐田中部幼稚園の移転・再築のみではなく、近くに磐田西幼稚園もあるので、磐田西幼稚園も含めた中泉地区の新たな幼児教育環境をどうしていくかという視点で基本構想に取り組んでいます。中泉地区の新たな教育環境の整備という考えに至った中で、磐田西幼稚園の敷地が案として挙がってきました。磐田西幼稚園は、昭和 55 年建設で、磐田中部幼稚園より 7 年新しい形になりますが、磐田中部幼稚園と磐田西幼稚園を同時に再築して、現在の磐田西幼稚園の敷地内に 2 園一体型で新しい中泉地区の幼稚園を建設する形で考えて

います。

磐田西幼稚園の敷地の図面を見ると、現在中心から東側に園舎が建っていて、園庭が西側と南側にL字型にあります。この西側の園庭のところ、一体型の園舎を建てる形で考えています。新しい園舎は2階建てを考えています。その後、磐田西幼稚園の現在の園舎を解体して、そこを園庭として活用したいと思っています。現時点で保育室の配置、定員等も含めて具体的などころまでは決定していません。来年度、基本設計、実施設計を予定しているので、その中で具体的などころを決定していきたいと思っています。現在のところでは、磐田西幼稚園の西側の敷地に一体型の新しい園舎を造るところで考えています。

<質疑・意見>

- こども園になるわけですか。
- こども園にするかどうかはまだ具体的になっていません。2つの園を1つに統合するような形で、両方とも幼稚園なので、新しい幼稚園と考えています。磐田中部幼稚園が移転してくるのでなく、新しい1つの園という形になります。ですので、園名も含めて今後検討していきます。
- 一体型によって、一番遠くなる方は、相当遠くなるんですか。
- 磐田中部幼稚園で一番遠いところから通っている方は、豊島や富丘からになります。現在、通園区も自由化されているので、いろいろなどころから通ってきていますが、磐田中部幼稚園というと、磐田中部小学校区の中で通っている方が85パーセント、磐田西小学校区で通っている方が13パーセント、残りが他の地域からとなります。
- 駐車場5台というのがすごく少ないと思いますが、今後駐車場はどうしていきますか。
- 現状は時間差で送迎してもらっています。新しい駐車場をどこかに設けたいと思っていますが、まだ具体的などころまではいっていませんので、引き続き課題として考えていきたいと思っています。
- 朝、家の方が徒歩で送ってきている姿を見かけますが、ほとんどの方は、そうなのでしょう。
- そうですね。ほとんどの方が徒歩や自転車で個別で来られる方が多いです。車で来る方も多いので、距離を決めて許可証を発行し、数を決めて、時間も決めて通園してもらっています。

(2) スポーツ振興室

磐田スポーツ部活指導者の委嘱についてです。本年5月26日の定例教育委員会で、指導者3名の委嘱と、委嘱に係る要綱の制定について報告しましたが、今回は、指導者2名の追加を報告します。ともに、静岡産業大学の陸上競技部に所属する学生で、現在、磐田スポーツ部活陸上部の指導補助の活動をしている人物です。指導の状況から、誠実かつ責任感がある人物と判断でき、大学学長からの推薦書の提出もあることから、指導者として委嘱します。指導者を追加する理由は、現在の陸上部活の指導者のうち1名が都合により活動できなくなる見込みがあることや、複数の指導者を確保したいことから、委嘱するものです。

<質疑・意見>

- 現在、陸上競技には何名在籍していて、活動は何日ぐらい行っていますか。
- 現在総勢19名、活動日は月・火・木・金の週4回、磐田市陸上競技場で午後6時から8時まで活動しています。

(3) 教育総務課

第4回ながふじ学府新たな学校づくり検討会は、12月7日に行いました。このときは、一体校

の建設場所について検討しました。児童生徒数を基に算出した校舎延床面積や必要校地面積の資料を基に話し合いまして、最終的には、「現豊田中学校敷地が適している」ということで意見がまとまりました。第4回までの検討会の内容については、かわら版として、地域住民や関係小中学校・幼稚園・保育園保護者、市内全小中学校長、市議会議員の皆様にご配付するとともに、教育委員会のホームページにも掲載したいと思います。

<質疑・意見>

- 今後のスケジュールで、基本構想を作って基本設計・実施設計に入っていく過程では、当然学年区分が勘案されるということから考えると、ある限りをもって学年区分の見直しを研究されていくのですか。
- 現時点では、6－3制でのスタートを予定しています。
- 学年区分も含めてカリキュラムについては、新たな学校づくり研究会を受けて、来年度カリキュラム研究会で深めていこうと思います。
- 施設そのものと学年区分のシステムは関係はしているのですが、今回のながふじ学府については向上型学府一体校で、豊田東小が既存施設での運営となるので、6－3制でないとなれば難しくなります。しかし、いずれは豊田東小が入ってくるので、それを視野に入れて、交流スペースを普通教室にできるように考慮していかなければなりません。一気に4－3－2制にしていくことは、ちょっと難しいです。

(4) 学校給食管理室

それでは、実施済主要事業として「学校給食試食会」について報告します。この件については、10月の定例教育委員会において、予定事業として説明しましたが、今回初めての取組として、市民の方を対象に、3箇所の学校給食センターでそれぞれ開催をしました。11月18日の大原学校給食センターには23名が、11月24日の豊岡学校給食センターには14名が、また11月30日の豊田学校給食センターには15名の、合わせて52名の方々が参加をされ、給食の試食のほか、施設の紹介や栄養士の講話などを行いました。参加者の内訳ですが、男性は、小さなお子さん2名のほか、30代から70代までの計12名、女性は、小さなお子さん3名のほか、20代から70代までの計40名となっています。参加の主な理由としては、「孫や子どもが毎日食べている給食がどのようなものか知りたかった」「子どもの頃給食を食べていたので、今はどうなっているか知りたかった」「子どもがこれから給食を食べるようになるので、どのような給食か知っておきたかった」などでした。また、アンケートの結果、参加者からは「給食は、ただ食べるだけでなく、食事の基本や栄養教育もしっかり進められており感心した」「家では作らないメニューがたくさんあり、ありがたい」「栄養面や素材の産地、アレルギー対応など、子ども第一の考え方がよく分かり安心した」とお褒めの言葉をいただいたほか、「見た目の華やかさがなく残念に感じた」という意見もありました。全体的には、「今後も毎年開催して、多くの人に学校給食の実態を知ってほしい」との意見が数多くありました。

次に、予定事業として「高校生による和の給食コンテスト最優秀賞 学校給食提供」についてです。これは中遠農林事務所が、地場産物の利用と食農教育の推進を目的に昨年度から始めた事業で、昨年度は掛川市で最優秀賞のメニューを給食に提供しましたが、今年度は最優秀賞を受賞した磐田農業高校2年生の夏目結奈(ゆいな)さんが考案した「静岡盛りだくさん給食」のメニューを、1月24日に磐田南小学校で提供するものです。献立は、主菜が「お茶粉入りシラスのかき揚げ」、副菜

が「チンゲン菜のおひたし」などとなっています。なお、この献立は、今後他の学校等でも提供していきたいと考えています。

<質疑・意見>

なし

(5) 学校教育課

生活習慣病予防研修会について報告します。養護教諭を対象に研修会を行いました。早稲田大学の前橋先生を招いて、「生活リズムとこどもの健康」について講話を行いました。睡眠によって子どもの学力に違いが出るなど、睡眠の大切さについてデータを基に教えていただきました。遊び・活動が大切で、小さい頃からの積み重ね、定着が大切だと再認識をしました。

北京市房山区教育委員会視察についてです。ぜひ磐田市に視察に来たいと申し出がありました。1月16日(月)、17日(火)の2日間で、市、教育委員会、城山中学校、磐田北幼稚園、磐田北小学校を参観していただく計画がありますので、御承知おきください。

例年このタイミングで、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果について報告していますが、新聞記事には載っていましたが、今年は国からのデータが送信されていません。1月の定例教育委員会で報告したいと思います。

<質疑・意見>

- 教育視察の件ですが、どうして磐田になったのか背景を教えてください。
- 訪問者の田輝さんが、日本でいうと文部科学省の幹部のような方で、磐田市に大学の同級生で通訳の方がいて、その方から磐田の教育について話を聞いて、議会事務局を通して視察依頼がありました。
- 教育委員は、何か関わることはありますか。
- まだ詳細が決まっていないので、必要に応じて連絡をします。

(6) 中央図書館

始めに、平成28年度の中央図書館及び豊田図書館の資料点検期間について報告します。中央図書館では、平成29年2月7日の火曜日から2月12日の日曜日まで、豊田図書館では平成29年2月21日の火曜日から2月24日の金曜日までを資料点検期間としたいと思います。

次に、月例報告です。各図書館でのおたのしみ会について報告します。竜洋図書館ではボランティア団体と協力して人形劇や指人形、絵本の読み聞かせを実施し、35人の参加がありました。福田図書館では職員によるストーリーテリングを実施し、25人の参加がありました。サンタクロースが登場してクリスマスプレゼントも用意されて楽しい会となりました。また、中央図書館でも17日にボランティア団体と磐田北高校の生徒さんによるクリスマスおたのしみ会を開催し、147人の参加がありました。

12月13日に実施した(仮称)子ども図書館基本構想策定第2回市民懇話会について報告します。傍聴者はいませんでした。議題としては、事務局から、一般利用者からの意見や、中学の司書教諭の先生方との意見交換の結果、及び高校生へのアンケート調査による意見の報告をしました。委員の皆様からは、子育て相談機能についての質問が多く出され、事務局から、子育て支援センターに行かない人も、図書館に相談機能を設置することで、気軽に相談できる窓口となることを目指していると説明しました。その後、愛知県田原市立図書館への視察報告とゾーニング案について提出し、

概ね了承を得ました。第3回の市民懇話会は2月初旬を予定しています。

次に予定事業として、豊田図書館において25周年記念イベントを開催します。開館当時から現在までの歩みを写真や掲示物で振り返ります。期間中に、かるたとり大会やおはなし広場など、子ども向けイベントも実施予定です。

<質疑・意見>

- (仮称) 子ども図書館は、いつ頃スタートしますか。
- 今年度基本構想を策定し、次年度設計に入り、工事に入っていきます。設計から工事は、まだ明確に年度は決まっています。

(7) 文化財課

実施済事業について、遠江国分寺跡整備基本計画案説明について報告します。これは、遠江国分寺跡整備基本計画案について、地元自治会と関係する団体に対し個別に説明をしました。出席者からは、資料館の建設や高いところから展望できる施設がほしい等の意見・要望がありましたが、基本計画案そのものについては了解していただいたものと考えています。また、12月15日まで1か月間パブリックコメントを実施しましたが、5件の意見が寄せられました。意見として、市役所6階を展望台に改修、資料館の建設、実際の建物がある場合と同じ見え方のCGを描いた案内看板の設置、人が集まる施設の設置、万葉歌碑の移設などが寄せられました。これらの意見については、現在その取扱いについて検討しているところですが、最終的な基本計画案については、整備委員会へ報告するとともに、教育委員会へ議案として提出します。

次に予定事業についてですが、歴史文書館歴史学習会についてです。歴史文書館では、1月10日から2月28日まで「水運の拠点から織物の町へ、福田町繁栄の歴史をたどる」というテーマで企画展を実施します。この企画展の期間中である1月21日に、静岡県別珍・コールテン剪毛工業組合理事長で、福田地内で織物業を営む星野秀次郎氏による記念講演会を実施します。講演会では、福田の織物業の歴史と現状及び今後の展望等についてお話していただく予定です。

<質疑・意見>

なし

●協議されたもの

(1) 新時代の新たな学校づくり研究会報告書について

新たな学校づくり研究会については8月に中間報告を作成し、教育委員の皆様は9月の定例会でたくさん意見をいただきました。その時の御意見や10月19日に行われた第7回新たな学校づくり研究会において、委員の皆様から頂いた意見をもとに、今回報告書を作成しました。それでは、中間報告の内容から加除修正した点について説明します。

まず目次ですが、今回、「磐田市の現状」「学府一体校を推進するにあたって」「学年区分を見据えたゾーニング」「小学生と中学生が同施設内で活動することを考慮したゾーニング」を項目として追加しました。変更した所は、「人としての可能性を伸ばす」その下の「深まり」という言葉、「学びの可能性を伸ばす」です。中間報告では「人間的な可能性」「深化」「学術的な可能性」という言葉を使用していましたが、漢語から和語に変えることにより、柔らかく分かりやすい言葉にしました。

「磐田市の現状」については、人口と児童生徒数、地域コミュニティの特徴、小中一貫教育とコミュニティ・スクール、学校施設の現状について載せました。その根拠となる資料について載せてあります。

続いて、「新時代に求められる子ども像」では、前回委員の皆様から御意見がありました「周りの世界への貢献につながる」「思いやりの精神」「周りにも相談できるという勇気」等の言葉を入れさせていただきました。また内容とのつながりについて一考し、こころざしや共生の心に支えられた「たくましさ」という言葉を使うようにしました。「ノーベル賞をとる」という言葉を改め、「グローバルな世界で活躍したり貢献したりする」としました。

続いて、「新時代に求められる学校像」です。ここは、大きく変えさせていただきました。学年区分に関することを入れたということです。まず、発達段階のおさえについて、全国的な傾向と磐田市の傾向について載せました。続いて、小中一貫教育に取り組む学校に見られる学年区分ということで、4つの例を挙げました。4-2-3制をとっている学校もありますが、それは6-3制と変わらないので、6-3制に含めました。それぞれの現状とメリット、デメリットについて載せました。研究会では「5-4制にすると外国語や家庭科はどうなるのか」「磐田市版のカリキュラムが必要になる」「4-3-2制ではどうなるのだろう」などの話題が出ました。磐田市の方向性としては、学年区分についてはもう少し考えていく必要があります。今後、たくましい磐田人を育てるカリキュラムの開発、不登校や問題行動に対応するカリキュラムの開発、発達段階の特性に対応したカリキュラムの開発に取り組んでいきます。多機能型学校につきましては、先進校の事例も入れる中で、多機能型学校の可能性や留意点について載せました。

続いて「本市の新たな学校づくり」では、目次のところでもお話ししましたが、「人間的な可能性を伸ばす」という言葉を「人としての可能性を伸ばす」という言葉、「深化」を「深まり」という言葉に変えました。また「子どものつながりの深まり」には、「1年生から9年生までの縦割り活動」、「地域とのつながりの深まり」には、「学校を核とした地域づくりの推進」という項目を入れました。前回御意見をいただいた自然とのつながりに関しては、「地域とのつながりの深まり」の最初の項目の中、家庭教育については、地域とともに行う子どもたちの健全育成の中に入れました。「教員のつながりの深まり」には、最後のところに、「外部の専門家や講師との連携の強化」ということで、「チーム学校」ということに関しても付け加えました。また、脚注のキャリア教育は、文科省の定義も入れ詳しくしました。「学びの可能性を伸ばす」ということですが、「グレード・フリー・ラーニング（多学年選択学習）」について、イメージ図を載せながら説明しました。

続いて、「学府一体校を推進するにあたって」です。中間報告には載せていませんでしたが、学府一体校を推進するにあたって考えていかなければならないこと、配慮したいことなどを載せました。「日課等、小中の学校生活における違いについて」は、先進校の事例も入れながら考えを示しました。これを基に開校3年前ぐらいから、学府ごとに教育課程を考えていくこととなります。「通学距離が長くなることについて」も必ず話題に挙がると思います。「既存施設で運営する小学校児童の人間関係づくりについて」は、向上型の場合、例えば豊田東小の児童の人間関係づくりが心配ではないかと保護者の皆さんから意見をいただきましたが、対応策について考えました。「乗り入れ授業について」は、中学校教員が小学校の授業をしたり、小学校教員が中学校の授業をしたりすることです。教員の数もあるので、どこまでできるかは分かりませんが、配慮していきたいと思います。「校内組織の一体化について」は、教員のつながりがより深まっていくことを考えました。「カリキュラムセンターでの情報発信」については、研究会で出た意見です。

「学府一体校の施設のあり方」については、2点追加しました。「学年区分を見据えたゾーニング」では、ながふじ学府は6-3制でスタートしますが、いずれ5-4制や4-3-2制になったときにもうまく対応できるゾーニングを、基本設計の中で考えたいと思っています。教室数をぴったりで作るこ

とはなく、多目的ホールを作っておいたり、余裕をもって作っておいたりすることも可能なので、ワークショップ等で意見を伺いながら考えたいと思います。いろいろな可能性を秘めたゾーニングを考えていきたいと思います。「小学生と中学生が同施設内で生活することを考慮したゾーニング」について、安全面を考慮してのことです。

尚、今後のスケジュールですが、新たな学校づくり研究会を1月25日に予定しています。そこで、最終報告書を取りまとめ、その報告書を受け、必要な部分をピックアップして、2月22日の定例教育委員会で「新たな学校づくり推進方針」を策定するという予定です。

また、ながふじ学府一体校等整備基本構想につきましては、2月22日に基本構想案を報告させていただきまして、3月23日の教育委員会で議決するという予定でいます。

- もう少し読み込んで、意見を出したいと思います。
- 次回1月の定例教育委員会の際に御意見をいただければと思います。
- 資料的にずいぶん多くなった感はありますが、学校づくりの夢やロマンにつなげていければと思います。